

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月15日現在

機関番号：34420

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21531038

研究課題名（和文） 発達障害及びその疑いのある大学生の支援プログラムの開発

研究課題名（英文） Program development: Supporting university students who have or suspected to have developmental disorders

研究代表者

八木 成和 (YAGI SHIGEKAZU)

四天王寺大学・教育学部・教授

研究者番号：90253244

研究成果の概要（和文）：

本研究では、これまでの大学生の発達障害やその疑いのある学生に関する調査結果や支援方法に関する研究成果をまとめ、課題を明らかにした。その成果から、本学における支援体制のモデルの提案を行った。加えて、試案として大学生が抱える困難さを測定する調査用紙を作成し、学生が抱える困難さを明らかにした。最後に、当該学生の理解を深めるためのパンフレットを作成し、配布した。今後、特別支援教育において求められる養護教諭の役割を検討し、今後の課題を示した。

研究成果の概要（英文）：

This was a research project to review literature investigating Japanese university students who have, or are suspected to have, developmental disorders as well as university-based measures to support them. As a result of the review, this project proposed a model of structural support a university can offer to the students in need along with a battery of questions to identify and investigate difficulties students face. It was also part of this project to produce and distribute brochures explaining situations of the students who suffer developmental disorders. Finally, the project suggested roles future school teachers in charge of health education for the challenged are expected to perform.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：教育系心理学、特別支援教育

1. 研究開始当初の背景

特別支援教育の導入や平成17年4月「発達障害者支援法」の施行などに伴って、大学における発達障害者の障害の状態に応じた適切な教育上の配慮や支援が求められてい

る。実際に大学においても学習面や集団生活の面において問題のある学生に対して教育職員の側も指導の困難さを感じており、他の教育職員や保護者との連携が必要であると強く感じている。発達障害やその疑いのある

学生が周囲に理解してもらえず、学習面や生活面において困難さを抱えていること、また、その学生が受講する教育職員の側においてもとまどいを感じていることが想定され、早急に対応しなければならない課題となっている。

2. 研究の目的

本研究では、教育心理学、学校保健学、臨床心理学をそれぞれ専門とする4名の共同研究者によって学際的な観点から、今後、大学全体で取り組むべき課題である発達障害のある学生やその疑いのある学生への理解を深める研究と支援方法を開発することを目的として実施された。

具体的には、以下の4つを目的とした。

(1) 学生相談室への来室者への事例分析から学生側の抱える問題点について検討する。

(2) 質問紙調査法により発達障害やその疑いのある学生がどのようなことに困り感を感じているのかについて調査用紙を作成し、調査結果と支援方法について検討する。

(3) 学生の困り感をもとに教職員や学生を対象とした啓蒙用のパンフレットを作成し、研修会等で配布することにより、理解を深める。

(4) 具体的な支援のための手続き等について策定し、支援システムの構築を行う。

3. 研究の方法

(1) 学生相談室に来室した学生の事例をもとに学生側の抱える問題点について明らかにした。

(2) 発達障害の学生及びその疑いのある学生への支援方法を検討するために、学生の困り感を測定するための調査用紙を作成し、質問紙調査を実施した。

(3) 文献研究により発達障害の学生及びその疑いのある学生の支援内容や支援のための学内の手続き等を具体化し、策定した。

(4) 学生相談室の事例分析や困り感の分析から教職員や学生を対象とした啓蒙用パンフレットを作成した。

4. 研究成果

(1) これまでの発達障害の学生及びその疑いのある学生を対象とした調査、支援方法に関する研究論文を概観し、今後方向性について検討した。その結果、第一に、FD等の機会を利用した教職員への発達障害に関する啓蒙活動に加えて、当該学生への直接的な支援、および当該学生と関わりのある教職員およ

び学生も視野に入れた支援体制の構築を図るためにも、学生支援センターや学生相談室等に発達障害についての知見のある専門スタッフが常駐し、支援を求める学生や教職員のニーズに応える体制作りの必要性及びクリニック等外部機関との連携が今後の課題として示された。第二に、大学・短期大学全体で行う全数調査によるスクリーニングの実施及び妥当性と信頼性のある用具の開発の必要性が示唆された。

(2) 支援方法に関する文献を概観し、本学における支援システムの提言を行った。その結果、第一に、学生支援センターや学生相談室等に発達障害学生を支援するコーディネーター的な者が常駐し、支援を求める学生や教職員のニーズに応える体制作り、医療機関等の外部機関との連携の必要性が示唆された。そして、この提言をもとに、平成22年度より臨床心理学を専門とする専任教員が学生支援センター副センター長として着任し、発達障害をもつ学生の修学・就職支援のコーディネートを行っている。また、支援を求める学生や教職員のニーズに応える体制を整えるため、専門的支援部署の一つである学生相談室の開室時間・スタッフおよび業務内容の拡充が行われた。

第二に、学生の実態把握のための全数調査によるスクリーニングの実施や、当該学生のアセスメントおよび生育歴を丹念に辿ることによって早期に具体的な支援を開始することの必要性が示唆された。

(3) 教育学部の学生268名を対象に、データを収集し、大学生活における困り感について調査を行った。調査用紙の項目は、岩淵・高橋(2011)によって作成された大学生のADHD困り感尺度の49項目、山本・高橋(2009)によって作成された自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版(AS困り感尺度)の25項目に加えて、本学における学習面に関する独自の項目として20項目から構成された。調査の結果、ADHD困り感尺度の項目において、とても困っていると感じている学生が多いことが示された。しかしながら、この結果に比べて、自閉症スペクトラム障害的困り感尺度と本学における学習面の困り感の項目では、とても困っていると感じている学生が相対的に少ないことが示された。今後、第一に、項目の内容や項目数の見直し、第二に、相談希望の有無との関連や関連するほかの要因について検討すべきことが示唆された。

(4) 学生相談室の相談事例をもとに発達障害の学生及びその疑いのある学生に対する理解を深め、支援を行っていく方向性を示したパンフレットを作成した。作成にあたっては

他機関で作成された既成のパンフレットを参考にした。作成されたパンフレットを教職員を対象とした全体研修会において、FD活動の一貫として配布し、理解を深めることに努めた。

(5)今後の課題

今後、幼児期から就労までの生涯にわたる支援を行う場合、大学や短期大学の高等教育機関が行う支援は非常に重要なものとなる。高等学校からの特別な教育的ニーズのある生徒に関する情報の提供は、大学や短期大学で行う支援において非常に重要なものとなる。

大学等の高等教育機関に在籍する発達障害のある学生の場合、学習面だけではなく、生活面や健康面でも困難さを抱える場合が多い。特に、医療に関する情報は健康管理を行う上で重要である。そこで、今後、特別支援教育コーディネーターだけではなく、高等学校の養護教諭をキーパーソンとし、大学・短期大学と高等学校との連携を推進することを提言した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

①本久美子、八木成和、広瀬香織、大学・短期大学における発達障害及びその疑いのある学生への支援の現状と課題、四天王寺大学紀要、査読有、第49巻、2010、pp.447-460
<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/toshokan/kiyou/049.html>

②八木成和、広瀬香織、楠本久美子、大学における学生自立支援の方向性—発達障害及びその疑いのある学生への支援との関連から—、四天王寺大学紀要、査読有、第51巻、2011、pp.411-419
<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/toshokan/kiyou/051.html>

[学会発表] (計0件)

[図書] (計1件)

①八木成和、楠本久美子、広瀬香織、川下維信、「発達障害及びその疑いのある大学生の支援プログラムの開発」課題番号(21531038)平成21~23年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書、2012、52ページ

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

八木 成和 (YAGI SHIGEKAZU)
四天王寺大学・教育学部・教授
研究者番号: 9 0 2 5 3 2 4 4

(2)研究分担者

楠本 久美子 (KUSUMOTO KUMIKO)
四天王寺大学・教育学部・教授
研究者番号: 0 0 3 0 0 2 9 4

広瀬 香織 (HIROSE KAORI)
四天王寺大学・人文社会学部・専任講師
研究者番号: 0 0 3 4 0 8 3 6

川下 維信 (KAWASITA MASANOBU)
四天王寺大学・人文社会学部・専任講師
研究者番号: 7 0 3 3 0 5 1 1

(3)連携研究者

()

研究者番号: